

医療法人社団 仁恵会 介護老人保健施設 相模大野



トイレに行きたいを叶えたい

～自立排泄への援助～

> 課題

大腿部骨折で車椅子生活を送るご利用者様の、「トイレに行きたい」を叶えることで、生活リズムを取り戻すことができるか？



H氏 94歳 女性

認知症が進行し、入所。
日常はシルバーカーを使用しており、トイレは自立で、1時間に1～2回の頻尿。

**転倒！
左大腿骨頸部骨折
で再入所…**



車椅子使用で終日おむつの状態に。
昼夜逆転し、大声を出されることも増える。

第1段階

トイレに行きたいを叶えたい！

トイレ誘導はスムーズになったが、昼夜逆転傾向は続く…。



スマートイン
パンツパッド



大型パッド

さらに

第2段階

トイレに行きたいを叶えたい！

自力でトイレへ行く（軽介助レベル）から、トイレ使用時、見守りレベルまで。



スマートイン
パンツパッド



パンツ用パッド

トイレに行くことで満足感と達成感を得ることができ、生活リズムを取り戻すことができた。
排泄ケアは、人間の尊厳を守る重要なケアであり、自立支援という観点でも重要な因子となる。

INTERVIEW 発表後のインタビュー



リハビリ時にスマートインを使っていたということですが、ご利用者様の変化はどうでしたか？

「転倒して自分でトイレに行けなくなってからは、ご本人も相当ストレスを貯めていらっしゃるようで、また初めてのおむつで、気持ちがかなり後ろ向きになっていることが見て取れました。ケガのリハビリと並行して、おむつをスマートインとパンツ用パッドに変えたことで、おむつのストレスが減って、本来の生活リズムを取り戻すことができたようです。笑顔も増えましたね」